

阪神大震災を教訓に

児童が命守る行動確認

防府・中関小で避難訓練

阪神大震災の発生から29年となった17日、防府市浜方の中関小学校で大地震を想定した避難訓練があり、全校児童約710人が災害から命を守るための行動を

確かめた。

同校は定期的に防災訓練や防災学習に取り組んでおり、訓練前に各教室で避難の際の決まり事として「押さない」「走らない」「しゃべらない」「戻らない」を確認。緊急地震速報の放送があると、児童たちはすぐに机の下に入って身の安全を確保し、揺れが収まって校舎の安全を確認した後、グラウンドへ避難した。



机の下に入って揺れが収まるのを待つ児童たち＝17日、防府市浜方

も避難する際に持ち出すものや避難場所を確かめた」と話した。

訓練には近くの向島小学校の子どもたちも参加した。

避難後は、元日に発生した能登半島地震などで犠牲になった人たちに全員で黙とうをささげた。亀田浩太郎校長は、阪神大震災や東日本大震災で多くの命が失われ、能登半島地震の被災地では救援活動が続いていることを説明。「地震など災害から大切な命を守るためにどのように行動したらよいかを考え、家族と話し合ってほしい」と呼びかけた。6年の重枝輝君(12)は「自分がみんなをお手本として引っ張れるように心がけた。訓練で学ぶことがたくさんある。家族や地域で